

高知県長期漁海況予報

平成24年下半年(8~12月)の漁況・海況の予想

平成24年8月発行 高知県水産試験場

このたび、平成24年8月から12月を予測期間とした「平成24年度第1回太平洋イワシ・アジ・サバ等長期漁況海況予報会議」が横浜市で開催されました。独立行政法人水産総合研究センター、高知県及び関係都道府県等の最新の調査結果から長期予報が作成されましたので、高知県関係を中心にその概要をお知らせします。

予報の概要

海況

黒潮：都井岬沖では、8月後半に小蛇行が形成され離岸傾向となる。9月、10月、12月には小蛇行の一部が東進し、一時的に接岸する。足摺岬沖～潮岬沖では、接岸傾向であるが、都井岬沖からの小蛇行の東進に伴い、9月、10月、12月には、一時的に離岸する。

沿岸水温：「平年並」～「高め」で推移する。黒潮の小蛇行の東進に伴い変動する。

漁況

サバ類：前年を下回る

マアジ：前年並から下回る

マイワシ：前年を上回る

ウルメイワシ：前年並から下回る

* 詳しい内容については次ページ以下をご覧ください。

海 況

【海況の経過（平成23年12月～平成24年7月）】

1 黒潮

足摺岬沖では、平成23年12月は「著しく離岸」したあと、平成24年1月は「かなり離岸」～「やや離岸」で推移しました。2、3月は「接岸」～「やや離岸」の接岸傾向に転じ、推移しました。4月上旬には、「著しく離岸」～「かなり離岸」の離岸傾向で推移しました。4月中旬以降は、再び「接岸」～「やや離岸」の接岸傾向で推移しました。

黒潮流軸位置階級区分（足摺岬、室戸岬）	
階級区分	範囲（マイル）
接岸	< 25
やや離岸	25 ≤、 < 45
かなり離岸	45 ≤、 < 65
著しく離岸	65 ≤

室戸岬沖では、平成23年12月～平成24年1月は、「やや離岸」で、2月～4月上旬は「やや離岸」～「接岸」の接岸傾向で推移しました。一転して4月中旬は「かなり離岸」となり、4月下旬以降は再び「接岸」～「やや離岸」の接岸傾向で推移しました。

以上のように、今期の高知県沖の黒潮は平成23年12月と平成24年4月の小蛇行一部の東進に伴う変動を示しつつ推移しました。

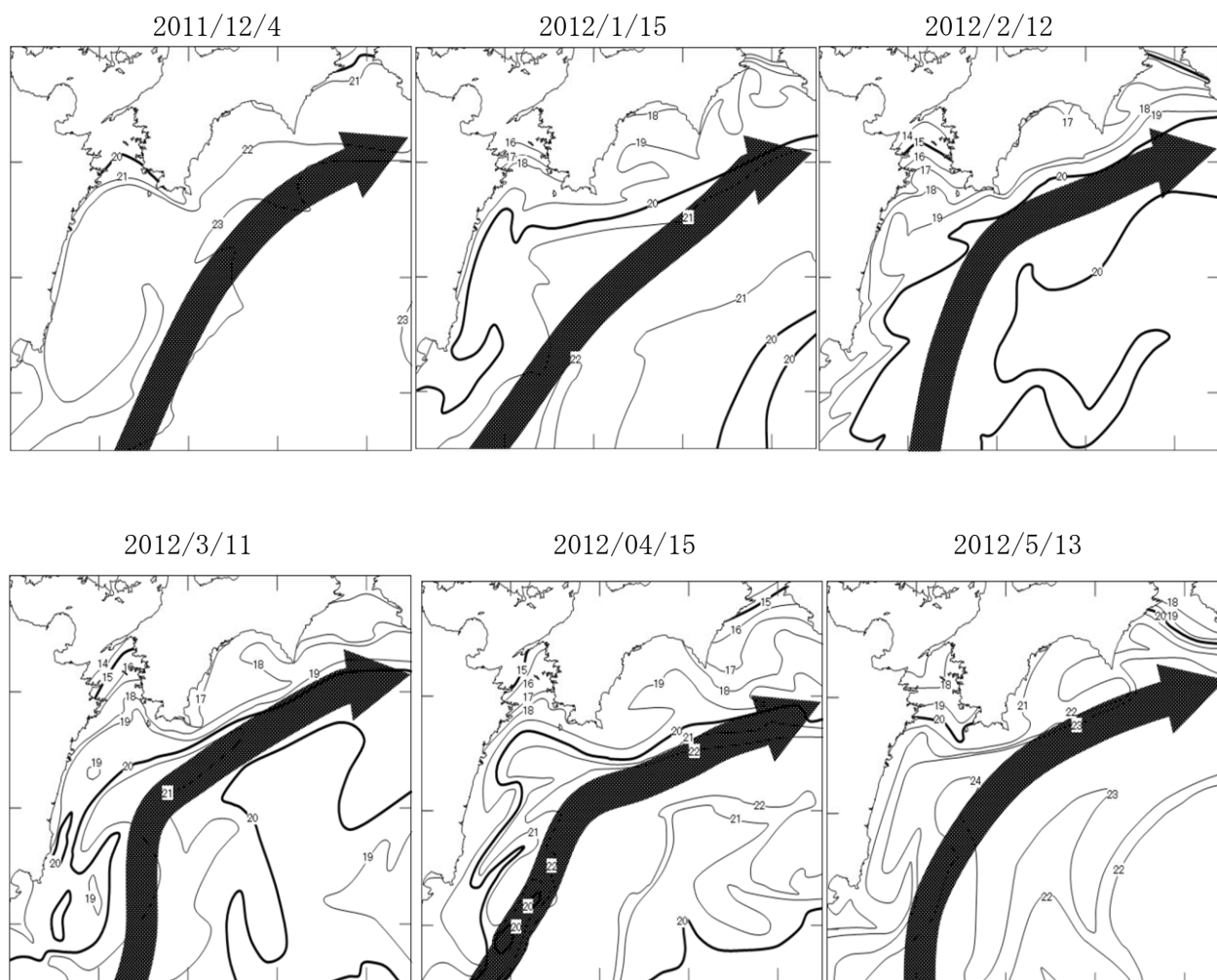


図 1 - 1 NOAA 衛星海表面水温画像等から推定した黒潮流軸位置
(2011 年 12 月～2012 年 5 月)

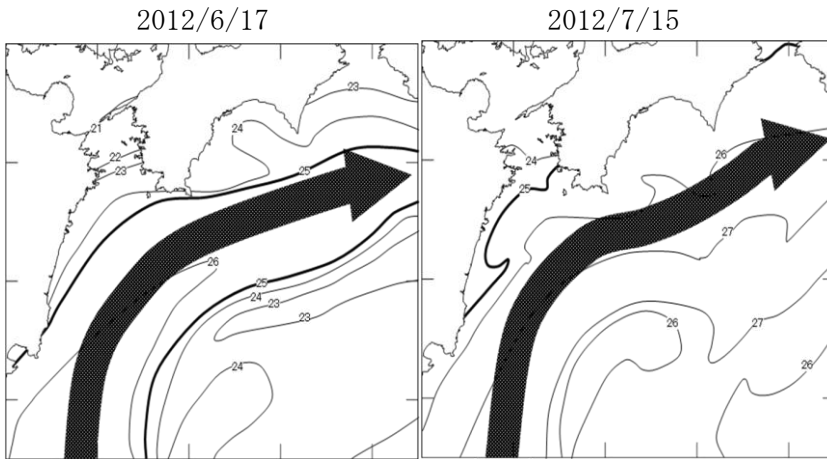


図1-2 NOAA衛星海表面水温画像等から推定した黒潮流軸位置 (2012年6~7月)

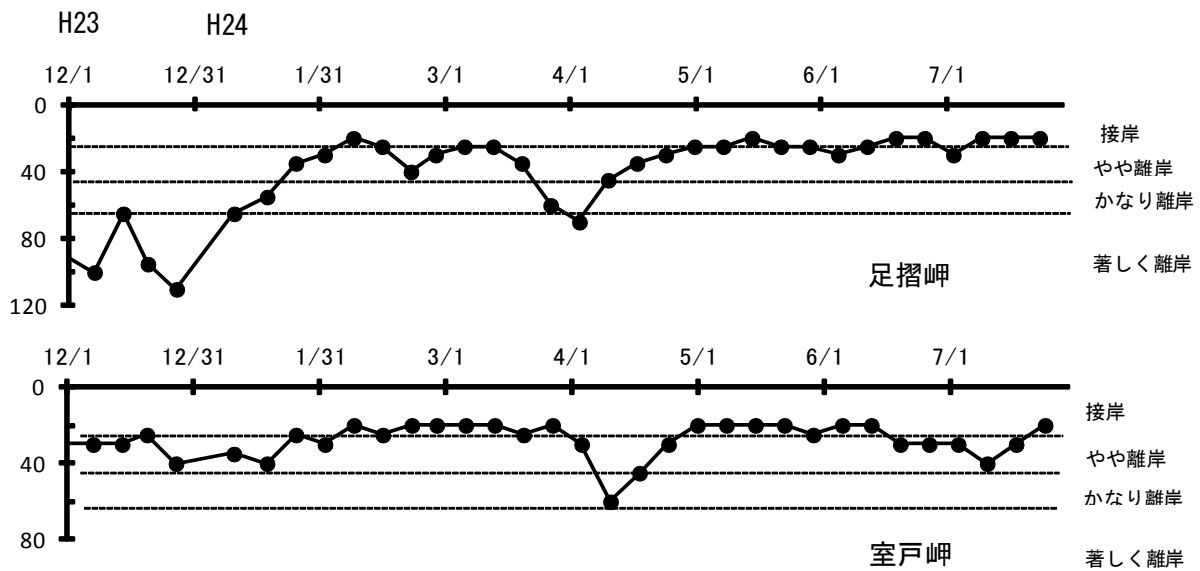


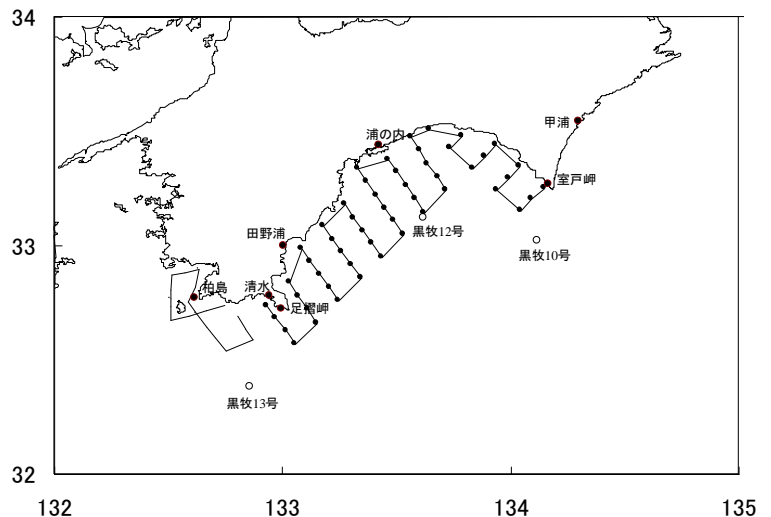
図2 足摺岬および室戸岬からの黒潮流軸離岸距離 (単位 マイル)

2 沿岸水温

沿岸定線調査の結果では、土佐湾沿岸域の0mから200m各層の水温は、一基調の「平年並」から「かなり高め」の範囲で推移しました。

月毎にみると、平成23年12月では、0m層は「やや高め」、50m層は「かなり高め」、100m層は「著しく高め」でした。200m層は+基調の「平年並」でした。

1月は「平年並」(0m層、100m層、200m層は-基調、50m層のみ+基調)となり、2月は+基調の「平年並」(0m層、200m層)から「やや高め」(50m層、100m層)、3月は「やや高め」(200m層)



から「かなり高め」（0～100m層）でした。

4～6月は、概ね+基調の「平年並」で推移しました。層別では、4月の0m層及び6月の200m層のみが-基調の「平年並」でした。

7月の0mは+基調の「平年並」、50m層は「著しく高め」、100m層及び200m層は「やや高め」でした。

表2 土佐湾平均水温の平年偏差

水深	0m	50m	100m	200m
平成23年12月	+	++	+++	+-
平成24年1月	-+	+-	-+	-+
平成24年2月	+-	+	+	+-
平成24年3月	++	++	++	+
平成24年4月	-+	+-	+-	+-
平成24年5月	+-	+-	+-	+-
平成24年6月	+-	+-	+-	-+
平成24年7月	+-	+++	+	+

表3 土佐湾水温平年偏差の階級区分

記号	呼称・内容	偏差範囲
+++	著しく高め	2.2℃以上
++	かなり高め	1.3～2.2℃
+	やや高め	0.6～1.3℃
+-	平年並(+基調)	0.0～0.6℃
---	著しく低め	-2.2℃以下
--	かなり低め	-1.3～-2.2℃
-	やや低め	-0.6～-1.3℃
-+	平年並(-基調)	0.0～-0.6℃

3 特異現象

海況

・3月末から4月中旬にかけて高知県沿岸域でヌタ（粘質状浮遊物：Thalassiosira属の珪藻が主体）が大量発生し、定置網や機船船曳網の網目がつまる、曳縄漁具に絡むなど操業に支障が出ました。定線海洋観測のプランクトンネットも目づまりし、卵稚仔サンプリングに支障をきたしました。各県の報告からThalassiosira属の珪藻の出現は、鹿児島県～静岡県側の太平洋側の沿岸域で一様に確認されています。

漁況

・宿毛湾の中型まき網で6月にマイワシ（2012年級群）が311 tの好漁となりました。6月としては、1984年以降で最高値です。

・2～4月に県東部定置網、足摺岬沖釣（立縄）で、マサバが好漁でした。県東部定置網では135t、平年比1410%（過去19年で最高値）、足摺岬沖釣では、43.4 t、平年比756%（過去20年で最高値）でした。

・土佐清水及び下ノ加江において、1月～6月のマルソウダ（めじか）曳縄漁が過去20年間で2番目の不漁でした。一方、5～6月には、徳島県、和歌山県、三重県、静岡県の定置網でマルソウダが好漁でした。

【今後の見通し（平成24年8～12月）】

1 黒潮

流型：潮岬以東の黒潮は、N型基調で推移し、一時的にB・C型流路となる見込みです。

四国沖の黒潮：都井岬沖では、8月後半に小蛇行が形成され離岸傾向となる見込みです。9月、10月、12月には小蛇行の一部が東進し、一時的に接岸する見込みです。

足摺岬沖～潮岬沖では、接岸傾向となるものの、都井岬沖からの小蛇行の東進に伴い、9月、10月、12月には、一時的に離岸する見込みです。

(根拠)

人工衛星による日本南方海域の海面高度データを利用した小蛇行の形成・発達・東進の予測手法に

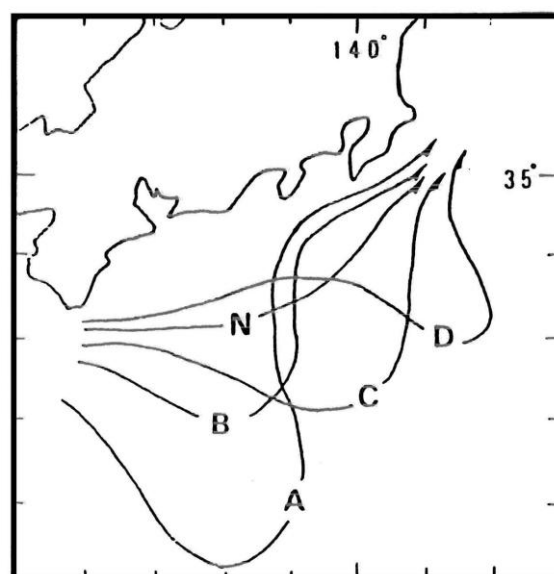


図4 黒潮の流型(吉田:1961、二谷:1969)

よっています。

2 沿岸の表面水温

「平年並」から「高め」で推移する見込みです。

(根拠)

- ・沿岸の表面水温は、気象の影響を受けやすいことがわかっています。高松地方気象台発表の「四国地方3か月予報」（平成24年6月25日発表、予報期間7～9月及び平成24年7月25日発表、予報期間8～10月）によると、期間中の平均気温は「平年並」か「高い」確率が高くなっています。
- ・近年、土佐湾の表面水温は高め傾向で推移しています。

漁 況

I サバ類（ゴマサバ及びマサバ）

【漁況経過（平成24年1～6月）】

1 高知県

(1) 宿毛湾の中型まき網による漁獲量は1803.4トン（以下、漁獲量は期間中の合計を示します）で、前年比76%、平年比89%（以下、平年とは平成13年から平成22年の10年間の平均値を示します）でした。漁獲物の体長測定結果によると、漁獲の主体は尾叉長27～33cmのゴマサバでした。

(2) 定置網（窪津・椎名2水揚地合計）による漁獲量は513.5トンで、前年比137%、平年比356%でした。漁獲物の測定並びに定置網入網調査等の結果によると、1～6月の漁獲主体は東部がゴマサバ（椎名サバ類489.9トン、マサバ混獲率31%）、西部がマサバ（窪津サバ類23.6トン、マサバ混獲率55%）でした。マサバが定置網へ多く来遊したのは、東部が2～3月、西部が3月以降でした。

(3) 釣（立縄・多鈎釣等、土佐清水・加領郷・室戸・甲浦4水揚地合計）による漁獲量は309.0トンで、前年比77%、平年比47%でした。魚体測定の結果、漁獲のほとんどはゴマサバで、前年同様3歳魚（平成21年生まれ）以上が主体でした。

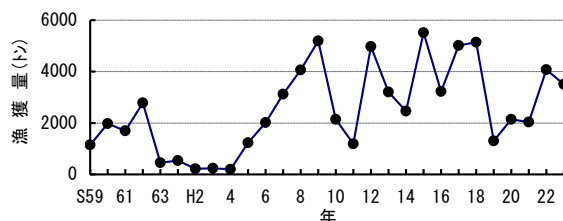


図 サバ類漁獲量の推移（中型まき網：宿毛湾）

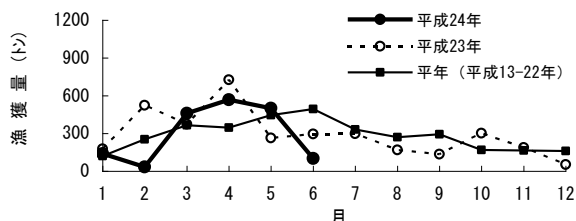


図 サバ類月別漁獲量の推移（中型まき網：宿毛湾）

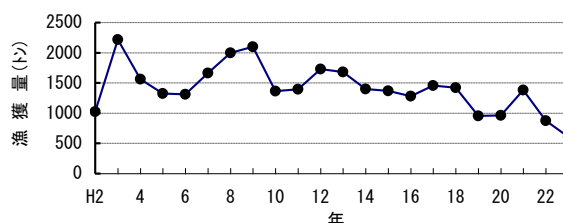


図 サバ類漁獲量の推移（清水・加領郷・室戸・甲浦：立縄等釣り）

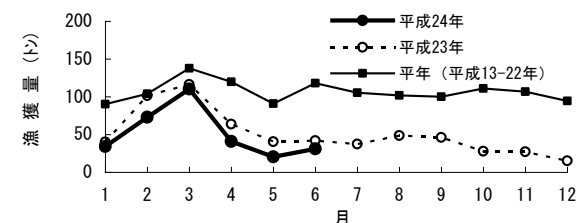


図 サバ類月別漁獲量の推移（清水・加領郷・室戸・甲浦：立縄等釣り）

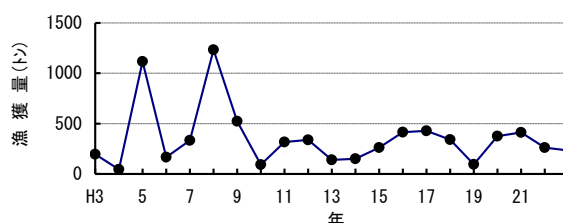


図 サバ類漁獲量の推移（窪津・椎名：大型定置網）

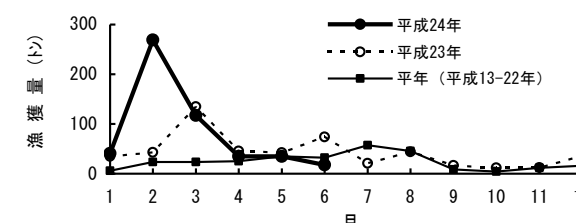


図 サバ類月別漁獲量の推移（窪津・椎名：大型定置網）

2 周辺各県の経過

宮崎県：日向灘のまき網による1～6月の総漁獲量は9,148トンで、前年比125%、平年比152%でした。

愛媛県：豊後水道のまき網では中部海域と南部海域を中心に漁場が形成され、4～6月の総漁獲量は2,497トンで前年比875%、平年比207%でした。

和歌山県：紀伊水道外域の2そうまき網による1～6月の総漁獲量はゴマサバ主体に2,400トンで、前年比186%、平年比176%でした。

【漁況予測（平成 24 年 8～12 月）】

- (1) 漁獲対象：1 歳魚（平成 23 年生まれ）、2 歳魚（平成 22 年生まれ）、3 歳魚（平成 21 年生まれ）
- (2) 来遊水準：
- ・ゴマサバ：1歳魚は前年並、2歳魚は前年を下回り、3歳魚以上は前年を上回ります。全体の来遊量としては下回ると考えられます。
 - ・マサバ：全体として低水準ですが、来遊量は前年を上回る見込みです。

(参考) 前年（平成 23 年）8～12 月のサバ類漁獲量

宿毛湾の中型まき網：850 トン

定置網（窪津・椎名合計）：120 トン

釣（立縄・多鈎釣等、清水・加領郷・室戸・甲浦 4 水揚地合計）：165 トン

説明：

ゴマサバ：高知県で 1～6 月の漁獲は芸東地区の定置網への入網が 2～3 月に好調でしたが、釣やまき網では下回ったため、全体では前年を下回りました。ゴマサバ太平洋系群の資源量は、3 歳魚（平成 21 年生まれ）が前年を上回りますが、主体となる 1 歳魚（平成 23 年生まれ）と 2 歳魚（平成 22 年生まれ）は前年並～下回ると推定されていることから、全体としては前年を下回ると予想しました。

マサバ：マサバの漁獲は 2～4 月が主で、8～12 月の漁獲量は多くありません。しかし、マサバ太平洋系群の包括的な資源量調査の結果、最近のマサバ資源量は増加傾向にあり、0 歳魚（平成 24 年生まれ）の発生量が多いと見込まれていることから、夏季に定置網などへ入網する可能性があります。ここでの漁況予測は、これらを中心に、高知県の漁況情報を加味して、作成しました。

II マアジ

【漁況経過（平成24年1～6月）】

1 高知県

- (1) 宿毛湾の中型まき網による漁獲量は127.0トンで、前年比69%、平年比39%でした。銘柄別では、150g以上の「アジ」が36.9トンで、前年比24%、平年比22%でした。150g未満の銘柄「ゼンゴ」は90.1トンで、前年比291%、平年比56%でした。
- (2) 定置網（窪津・椎名2水揚地合計）による漁獲量は364.0トンで、前年比110%、平年比136%でした。

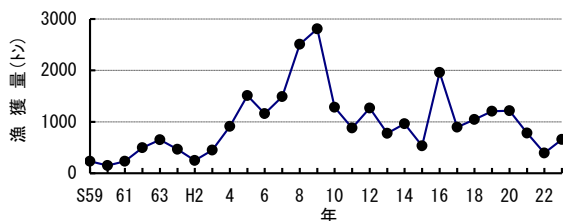


図 マアジ漁獲量の推移（中型まき網：宿毛湾）

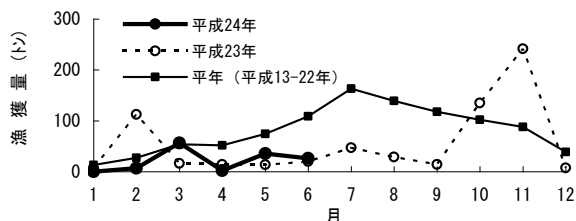


図 マアジ月別漁獲量の推移（中型まき網：宿毛湾）

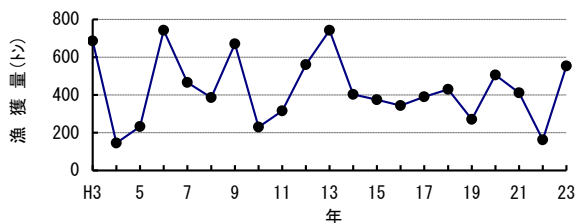


図 マアジ漁獲量の推移（窪津・椎名：大型定置網）

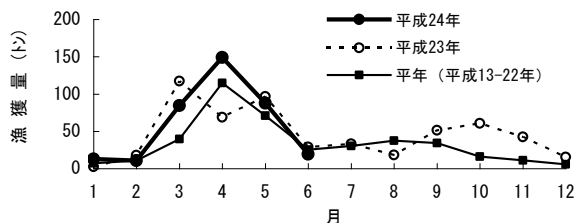


図 マアジ月別漁獲量の推移（窪津・椎名：大型定置網）

2 周辺各県の経過

宮崎県：日向灘のまき網による1～6月の総漁獲量は723トンで、前年比182%、平年比145%でした。

愛媛県：豊後水道では中部海域を主体に漁場が形成され、4～6月の総漁獲量は372トンで、前年比53%、平年比26%でした。

和歌山県：紀伊水道外域2そうまき網による1～6月の漁獲量は253トンで、前年比47%、平年比25%でした。

【漁況予測（平成24年8～12月）】

- (1) 漁獲対象：0歳魚（平成24年生まれ）と1歳魚（平成23年生まれ）主体。
- (2) 来遊水準：前年並から下回ると考えられます。

（参考）前年（平成23年）8～12月のマアジ漁獲量

宿毛湾の中型まき網：427トン

定置網（窪津・椎名合計）：188トン

説明：

マアジ太平洋系群の資源水準は「中位」、動向は「減少」と評価されています。予測期間中は0歳魚（平成24年生まれ）と1歳魚（平成23年生まれ）が主な漁獲対象となります。両者の本県における来遊水準と、近隣県の情報を考慮すると、本年下半期のマアジの来遊水準は前年並から下回ると推定されます。

III マイワシ

【漁況経過（平成24年1～6月）】

1 高知県

- (1) 宿毛湾の中型まき網による漁獲量は1015.5トンで、前年比124%、平年比230%でした。漁獲は1、2、6月に多く、主体は体長10～13cm台の0歳魚（平成24年生まれ）でした。
- (2) 定置網（窪津・椎名2水揚地合計）による漁獲量は19.7トンで、前年比15%、平年比31%でした。漁獲は6月がほとんどで、測定結果によると体長11cm台の0歳魚（平成24年生まれ）が主体でした。

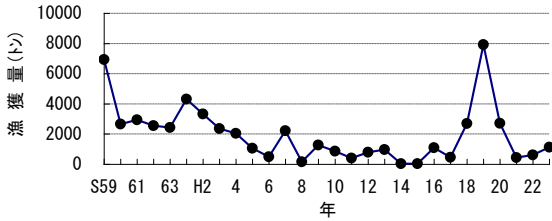


図 マイワシ漁獲量の推移（中型まき網：宿毛湾）

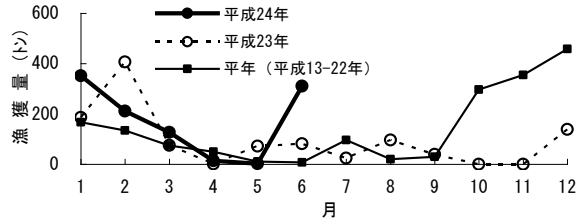


図 マイワシ月別漁獲量の推移（中型まき網：宿毛湾）

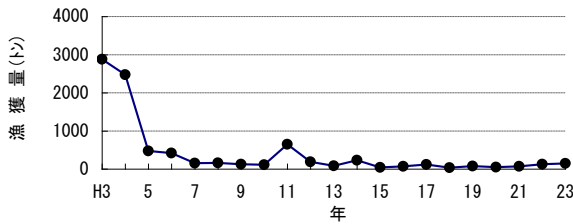


図 マイワシ漁獲量の推移（窪津・椎名：大型定置網）

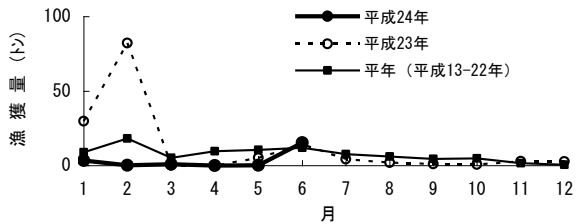


図 マイワシ月別漁獲量の推移（窪津・椎名：大型定置網）

2 周辺各県の経過

- 宮崎県：日向灘のまき網による1～6月の総漁獲量は809トンで、前年比85%、平年比91%でした。
- 愛媛県：豊後水道のまき網では中部を中心に漁場が形成され、4～6月における総漁獲量は471トンで前年比39%、平年比72%でした。
- 和歌山県：紀伊水道外域東部から熊野灘の1そうまき網による4～6月の総漁獲量は163トンで、前年比76%、平年比118%でした。

【漁況予測（平成24年8～12月）】

- (1) 漁獲対象：0歳魚（平成24年生まれ）主体。
- (2) 来遊水準：前年を上回る来遊と考えられます。

(参考) 前年（平成23年）8～12月のマイワシ漁獲量
 宿毛湾の中型まき網：273トン
 定置網（窪津・加領郷・椎名合計）：9トン

説明：

マイワシ太平洋系群の資源水準は「中位」、動向は「増加」と評価されています。本県における下半期の主な漁獲対象となる0歳魚（平成24年生まれ）は、高知県海域で前年を上回る来遊水準にあると考えられます。1歳（平成23年生まれ）以上の魚は少なく、来遊するとしても散発的と考えられます。以上のことから、予測期間中の来遊は前年を上回ると予測されます。

IV カタクチイワシ

【漁況経過（平成24年4～6月）】

1 高知県

- (1) 宿毛湾の中型まき網による漁獲量は404.8トンで、前年比276%、平年比73%でした。銘柄別

では幼魚「ドロ」が170.3トンで、前年比234%、平年比120%でした。未成魚・成魚の銘柄「タレ」は234.5トンで、前年比317%、平年比57%でした。

(2) 定置網(窪津・椎名2水揚地合計)による漁獲は35.7トンで、前年比15%、平年比32%でした。

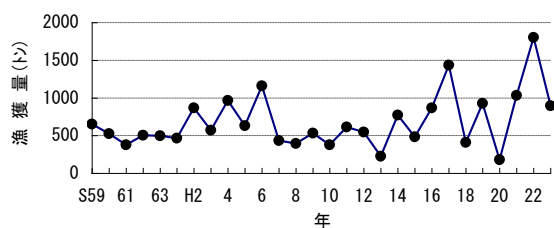


図 カタクチイワシ漁獲量の推移(中型まき網:宿毛湾)

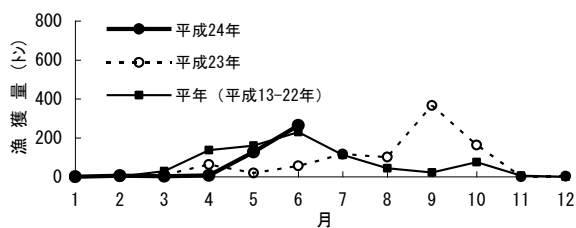


図 カタクチイワシ月別漁獲量の推移(中型まき網:宿毛湾)

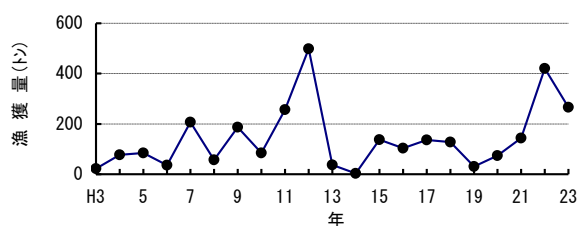


図 カタクチイワシ漁獲量の推移(窪津・椎名:大型定置網)

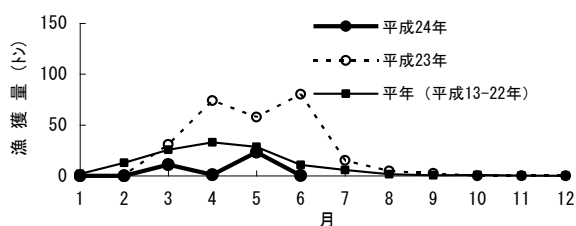


図 カタクチイワシ月別漁獲量の推移(窪津・椎名:大型定置網)

2 周辺各県の経過

宮崎県：日向灘のまき網による1～6月の総漁獲量は1,483トンで、前年比403%、平年比65%でした。

愛媛県：豊後水道では中部海域を中心に漁場が形成され、4～6月の総漁獲量は1,317トンで前年比276%、平年比118%でした。

和歌山県：成魚は主たる漁獲対象ではありません。

【漁況予測(平成24年8～12月)】

高知県海域では、下半期に主たる漁獲対象にならないと考えられます。なお、鹿児島から豊後水道にいたる他県海域では、前年並から下回る来遊水準と予測されています。

V ウルメイワシ

【漁況経過(平成24年1～6月)】

1 高知県

(1) 宿毛湾の中型まき網による漁獲量は1774.6トンで、前年比96%、平年比186%でした。体長測定から、0歳魚(平成24年生まれ)と1歳魚(平成23年生まれ)ともに漁獲していたと考えられます。

(2) 定置網(窪津・椎名2水揚地合計)による漁獲量は18.4トンで、前年比156%、平年比56%でした。定置網入網調査と体長測定から、0歳魚(平成24年生まれ)を主体に漁獲していたと考えられます。

(3) 宇佐漁協の多鈎釣漁(土佐湾中央部)による漁獲量は92.4トンで、前年比142%、平年比91%でした。

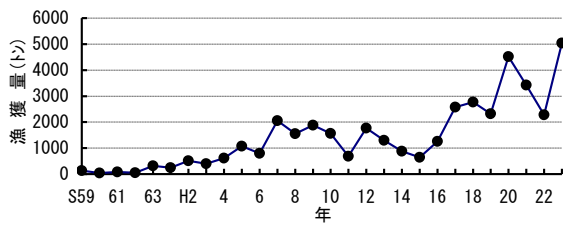


図 ウルメイワシ漁獲量の推移（中型まき網：宿毛湾）

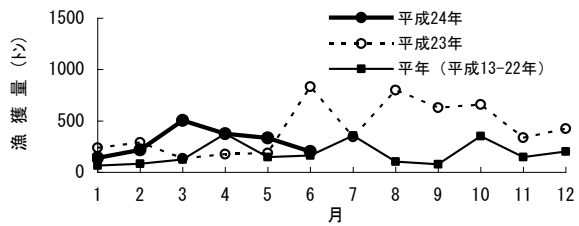


図 ウルメイワシ月別漁獲量の推移（中型まき網：宿毛湾）

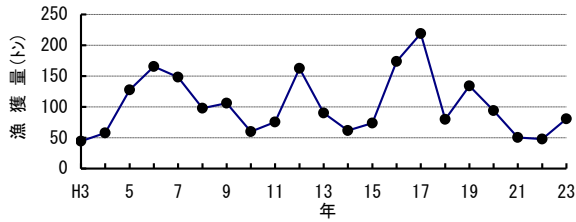


図 ウルメイワシ漁獲量の推移（窪津・椎名：大型定置網）

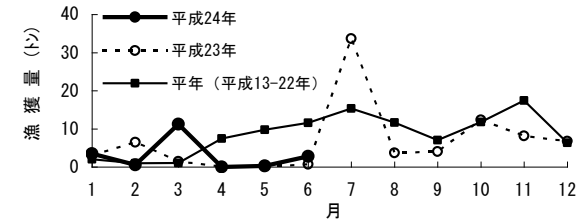


図 ウルメイワシ月別漁獲量の推移（窪津・椎名：大型定置網）

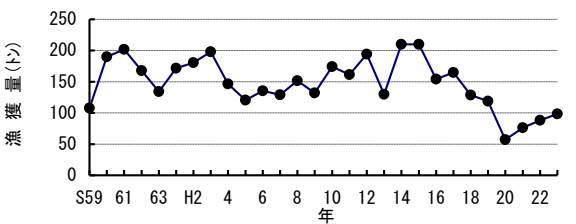


図 ウルメイワシ漁獲量の推移（宇佐：土佐湾中央部 多鈎釣）

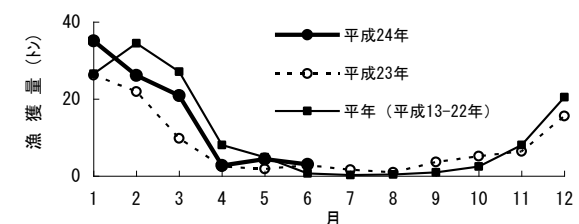


図 ウルメイワシ月別漁獲量の推移（宇佐：土佐湾中央部 多鈎釣）

2 周辺各県の経過

宮崎県：日向灘のまき網による1～6月の総漁獲量は1,112トンで、前年比35%、平年比47%でした。

愛媛県：豊後水道は南部海域を中心に漁場が形成され、まき網による4～6月の総漁獲量は1,498トンで、前年比75%、平年比237%でした。

和歌山県：紀伊水道外域東部から熊野灘における1そうまき網は、4～6月の総漁獲量が504トンで、前年比202%、平年比322%でした。

【漁況予測（平成24年8～12月）】

- (1) 漁獲対象：0歳魚（平成24年生まれ）主体。
- (2) 来遊水準：前年並から下回ると考えられます。

(参考) 前年（平成23年）8～12月のウルメイワシ漁獲量

宿毛湾の中型まき網：2,844トン
 定置網（窪津・椎名合計）：35トン
 多鈎釣漁（宇佐漁協）：32トン

説明：

ウルメイワシの資源は高水準で推移しており、近年の動向は増加傾向と評価されています。例年、ウルメイワシの1歳魚は夏に寿命となって姿を消し、その後は0歳魚が漁獲の主体となります。今年の0歳魚（平成24年生まれ）は、高知県とその近隣海域において多く出現していますが、好漁であった前年には及ばない水準にあると考えられます。以上のことから、下半期の来遊水準は前年並から下回る見込みです。

VI シラス

【漁況経過（平成24年1～6月）】

1 高知県

機船船曳網（安芸地区 4 水揚地・春野町・錦浦・田野浦 7 水揚地合計）による漁獲量は 609.0 トンで、前年比 75%、平年比 101%でした。1～3 月はマイワシ主体にウルメイワシが混じり、カタクチイワシもわずかにみられました。4 月はカタクチイワシとウルメイワシ、5 月はカタクチイワシが主体でした。

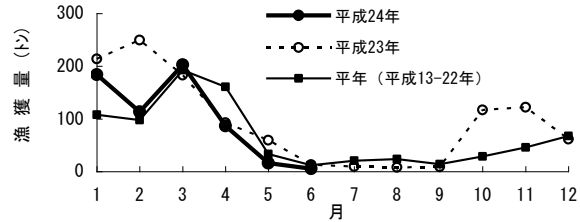
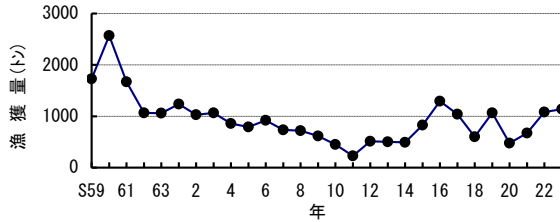


図 シラス漁獲量の推移（安芸地区、春野町、錦浦、田野浦計 7 漁協） 図 シラス月別漁獲量の推移（安芸地区、春野町、錦浦、田野浦計 7 漁協）

2 周辺各県の経過

宮崎県：1～6 月の総漁獲量は 768 トンで、前年比 125%、平年比 92%でした。

大分県：佐伯湾における 4～6 月の漁獲量は 24.9 トンで、前年比 185%、近年比 68%でした。

徳島県：紀伊水道内における 4～6 月の漁獲量は 344 トンで、前年比 675%でした。

【漁況予測（平成 24 年 8～12 月）】

(3) 漁獲対象：0 歳魚（平成 24 年生まれ）。

(4) 来遊水準：土佐湾周辺における下半期のシラス漁獲量は、11、12 月の漁模様に大きく左右されるため、現時点での予測は困難です。